

ドキュメンタリー映画上映会

みちのく 電記

2026年2月21日(土)

14:00 開演 (13:30 開場 / 16:30 終演)

せんだいメディアテーク

7階 スタジオシアター

参加無料

上映後トーク・Q&A：嶋原宏一朗（出演）・岩崎監督

事前申込 QR コード

(事前申込なしでも当日入場 OK)



主催 宮城県保険医協会 協力 日本科学者会議宮城支部 みやぎ地域市民電力連絡会 生活協同組合あいコープみやぎ
Fridays For Future Sendai みやぎ反核医師・歯科医師の会

東北から世界へ、
ぼくらの未来をかけた
電気をめぐる“旅”

東北とグローバルサウスのエネルギー問題の実態に迫り、
誰も取り残さない社会を目指すZ世代を追ったドキュメンタリー

監督・製作・撮影・編集
岩崎祐

共同製作・追加撮影
ロジャー・スミス

製作協力
マイティー・アース

2024年 83分 日本 16:9 カラー ドキュメンタリー
©2024 一粒舎

あきらめない。

気候変動の取り組みは、貧困の取り組み。
みんなと一緒に、
持続可能な地域社会をつくっていきける。

宮城の発電所めぐり × 原発事故の経験 グローバルサウスとのつながり × 仙台のエネルギー貧困対策

本作は、仙台を拠点に気候変動対策に取り組んできた若者、鳴原（しぎはら）宏一朗の活動の軌跡を伝える。小学生の時に福島・郡山で原発事故の影響を受けた彼は、仙台の大学に進学後、被災者への補償が打ち切られていく現実に疑問を抱き、エネルギーや貧困問題への関心を深めていった。やがて世界の若者たちの間に広がった気候運動に共鳴し、街頭で授業ストライキを始める。原発事故後、宮城県内では気候変動に拍車をかける石炭火力やパーム油発電、森林を破壊するメガソーラーなどの建設が相次いだ。鳴原は現場で研究者や住民の声に耳を傾ける中で、市民出資による地産地消のソーラー発電に希望を見出していく。

バングラデシュの同世代からのメッセージで、日本が海外で進める石炭火力事業の実態を知った鳴原は、国境を越えた運動に加わり、エジプトで開かれた国連気候変動対策会議 COP27 を訪れる。一方、日本国内では電気代が高騰し、鳴原は仙台の仲間と共にエネルギー貧困対策としての再生可能エネルギーへの転換を訴え、食料支援にも取り組む。日本の周縁としての「みちのく」と、多くの日本人にとって馴染みの薄いグローバルサウスという「未知の国」をめぐる鳴原の活動は、気候危機という地球規模の課題と、身近な生活の中にある切実な問題を結びつけていく。カメラは、一人の若者の成長と、彼と仲間たちが生み出す社会変化の兆しを映し出す。

みちのく
電記

監督・製作・撮影・編集：岩崎祐 共同製作・追加撮影：ロジャー・スミス

出演：鳴原宏一朗

2024 年 / ドキュメンタリー / 83 分 / 16:9 / カラー ©2024 一粒舎

michinokudenki.com



自主上映会 開催 & 募集中

お問合せ：『みちのく電記』上映会実行委員会
michinokudenki@gmail.com